

木花地域
まちづくり推進
プラン

きばなのきずな

kibananokizuna

笑顔で参加、築こう安心・安全、自然豊かな住みよい木花の里



令和4年3月改訂

木花地域自治区地域協議会

目次

| | |
|---------------------|----|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. 木花地域自治区の紹介 | 2 |
| 3. 地域魅力発信プラン 7つのテーマ | |
| ① 福祉 笑顔と優しさあふれるまち | 4 |
| ② 安心 安全・安心を築くまち | 5 |
| ③ 環境 環境を守るまち | 6 |
| ④ 文化 歴史を守り文化を育むまち | 7 |
| ⑤ 学び 生涯にわたって学ぶまち | 8 |
| ⑥ ひと 人が育ちつながるまち | 9 |
| ⑦ 振興 地域資源を活かすまち | 10 |
| 4. 木花の宝 | |
| 木花の宝 紹介 | 11 |

1. はじめに

改訂に当たって

平成26年(2014年)に将来の木花のまちづくり活動方針として7つのテーマにまとめて策定した『きばなのきずな』も、年月を経て時代に寄り添った内容の検討が必要となり、木花地域自治区地域協議会内に地域魅力発信プラン専門委員会を設置して検討を重ね、この度改訂版を発行することになりました。

海、山、川の3つもの豊かな自然に恵まれた木花は、歴史的にも貴重な文化遺産が豊富な上、『世界を視野に 地域から始めよう』のスローガンのもと特色ある教育・研究・地域貢献、国際連携などを行う宮崎大学という教育環境にも恵まれていることが、平成24年度に実施した自治会加入全世帯の住民アンケートにも表れています。

一方、現実には少子高齢化をはじめ様々な困難が待ち受ける時代に直面していることも事実で、だからこそ未来の子ども達が、この生まれ育った木花を誇れるようにしたいものです。

その目標に向かって、豊かな自然や人材(人財)を一段と活性化するためには、住民が世代を超えて協力連携し、地域資源を活用して伸び行くことのできるよう、それぞれで活動している今の縦割りの地域組織が、横のつながりを深めて一体的に地域の課題解決に取り組んで行くことで、一層魅力ある木花のまちづくりを推進していきましょう。

令和4年(2022年)3月
木花地域自治区地域協議会
会長 大神 博

2. 木花地域自治区の紹介

1. 面積

宮崎市の南部に位置し、宮崎市の地域自治区の中で3番目の面積となっています。

| 区分 | 面積 |
|---------|------------------------|
| 宮崎市全体 | 664.61k m ² |
| 木花地域自治区 | 65.52k m ² |

宮崎市地域自治区区割図



2. 人口及び世帯数

人口は、年々減少していますが、22ある地域自治区の中で14番目の規模となっています。一方で世帯数は年々増加しており、一世帯当りの世帯員数の減少が顕著です。

| 区分 | | H18 (2006年) | R3 (2021年) | 増減 |
|---------|-----|----------------|---------------|----------|
| 宮崎市全体 | 人口 | 370,363人 | 402,038人 | 31,675人 |
| | 世帯数 | 159,541世帯 | 198,631世帯 | 39,090世帯 |
| 木花地域自治区 | 人口 | 12,852人 | 11,788人 | △1,064人 |
| | 世帯数 | 5,732世帯 | 6,036世帯 | 304世帯 |

※各年度の1月1日現在の住基人口による。

3. 年齢構成

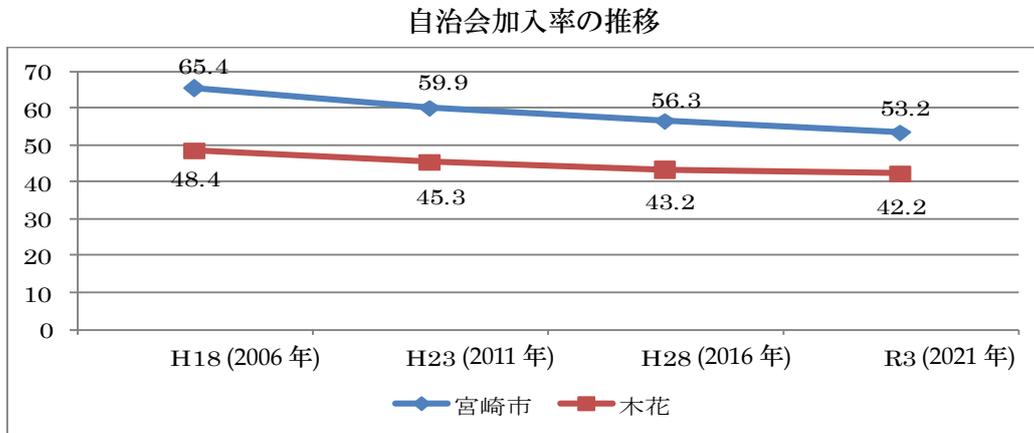
木花地域自治区においても、64歳以下の人口が減少し、65歳以上の人口が増加しており、高齢化が進展しています。

| 区分 | | H18 (2006年) | R3 (2021年) | 増減 |
|---------|--------|----------------|---------------|----------|
| 宮崎市全体 | 0~14歳 | 55,816人 | 55,541人 | △275人 |
| | 15~64歳 | 244,267人 | 233,528人 | △10,739人 |
| | 65歳以上 | 70,280人 | 112,969人 | 42,689人 |
| 木花地域自治区 | 0~14歳 | 1,912人 | 1,402人 | △510人 |
| | 15~64歳 | 8,628人 | 6,988人 | △1,640人 |
| | 65歳以上 | 2,312人 | 3,398人 | 992人 |

※各年度の1月1日現在の住基人口による。

4. 自治会

木花地域自治区内では、26の自治会が地域のきずなづくりを目指して活動していますが、加入率は減少傾向となっています。



5. 公共施設等

| 区分 | | 名称 |
|-----|-------|---|
| 教育 | 幼稚園 | 木花幼稚園 |
| | 小学校 | 木花小学校 鏡洲小学校 学園木花台小学校 |
| | 中学校 | 木花中学校 |
| | 大学 | 宮崎大学 |
| | 公立公民館 | 木花公民館(自治公民館 14館) |
| 福祉 | 保育園 | 木花こども園 加江田保育園 鏡洲保育園 ゆにのもり保育園 |
| | 児童館 | 木花児童センター |
| | その他 | 木花・青島地区地域包括支援センター |
| その他 | | 宮崎県総合運動公園(サンマリスタジアム、このはなドーム、青島青少年自然の家等) |
| | | 京都大学防災研究所付属地震予知研究センター宮崎観測所 |

6. 交通アクセス

| 区分 | アクセス |
|------|-----------------------------|
| 鉄道 | JR 日南線「木花駅」 |
| バス | 「宮崎大学・大学病院」行、「青島・折生迫、日南」行 |
| 高速道路 | 九州自動車道「清武IC」、東九州自動車道「清武南IC」 |
| 主要道路 | 国道 220 号、県道 367 号(中村木崎線) |

3. 地域魅力発信プラン 7つのテーマ



笑顔と優しさあふれるまち

★ 子どもを安心して育てられるまち

子育て世代が暮らしやすい環境は、子どもをとりまく全ての人にとっても優しいまちです。木花地域は、みんなで子育てを見守り助け合う人情味溢れる取り組みを、これからも続けていきます。

★ 高齢者が安心して暮らせるまち

高齢者の見守り活動や認知症サポーターの継続的な養成などを通して地域の高齢者との絆を深め、共に安心して暮らせるまちづくりを推進していきます。

★ 世代間交流の豊かなまち

どの世代もお互いの立場を思いやりながら、温かい地域づくりを大切にする木花を目指します。

★ 交通利便を考えるまち

移動に困難や不安を抱える人も安心して暮らせるよう、様々な手段と工夫で地域内の交通の利便性アップを考えます。関係機関と知恵を出し合い互いに組みながら優しいまちづくりを続けていきます。



乗り合いタクシー「このはな号」



認知症カフェ
(オレンジカフェひまわり)



児童の登下校見守り活動



昔の遊び体験学習

★ 子どもがのびのび暮らすまち

子どもを守るため、登下校の見守り・「青パト」巡回・朝夕の「あいさつ声かけ」など、地域全体でコミュニケーションを取り合い、子どもが健やかに育つ風土を保っています。

★ 防災意識の高いまち

1662年に発生した外所地震(とんところじしん)と呼ばれる地震によって大きな被害を受けた木花地区では、50年毎の供養碑の設置が今も続けられています。

過去の災害を教訓にして、住民・学校・福祉施設・企業等も含め木花全体で地域防災について考え行動し、安全安心な木花を築いていきます。

★ 交通マナーのよいまち

歩行者も、自転車に乗る人も、車を運転する人も、お互いに気遣って事故や違反のない安全な木花を目指します。



青パト・防犯パトロール隊



宮崎南交通安全協会木花支部の活動



外所地震の供養碑と地震の教訓を伝える紙芝居

3 環境

環境を守るまち

★ 四季折々の自然を楽しむまち

海・山・川の豊かな自然に恵まれた木花。世界レベルのサーフィンスポットの木崎浜を擁する太平洋、宮崎自然休養林(加江田溪谷、双石・徳蘇山系)を育む斟鉢山(くんぱちやま)や双石山(ぼろいしやま)、加江田溪谷、区域内を流れる清武川・加江田川・知福川は多種多様な生物の宝庫です。この恵まれた自然環境を守りながら、共存する活動を季節ごとに展開し、豊かな暮らしの木花を目指します。

★ 環境美化をすすめるまち

ゴミのないまちは、皆がルールを守っている証です。防犯、防災、減災にもつながる環境美化に取り組んでいきます。



木花公園



稚鮎の放流

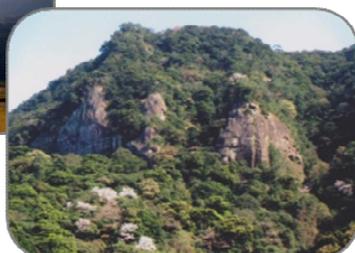
キバナノホトトギス



椿



斟鉢山と
双石山



このはなスポーツプラザの草刈り

4 文化

歴史を守り文化を育むまち

★ 地域の伝統文化を守り育てるまち

木花の地名の由来にもなったコノハナサクヤヒメにまつわる神話や歴史を後世に伝える活動や、宮崎市の無形文化財第一号である木花相撲踊りを始めとする郷土の伝統文化の継承活動を、地域と学校が連携して取り組んでいます。こうした活動を通して、郷土を誇りに思う心と地域の担い手を育てていきます。

★ 木花の宝を発信するまち

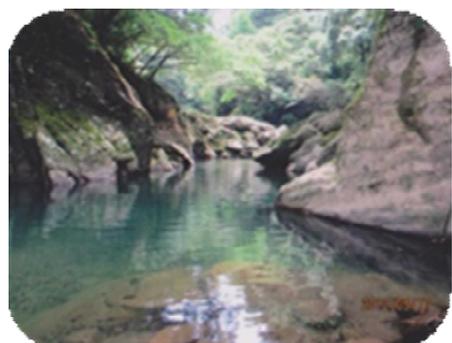
木花には一般にはまだ知られていない地域の宝と魅力が数多くあります。魅力あふれる木花の宝を多くの人に知ってもらうため、保全にも力を注ぎながら、その取り組みを様々な形で積極的に情報発信していきます。



木花相撲踊り



伊勢神楽



加江田溪谷



「亥の子もち」の石



「無戸室」と桜川伝説



下原雨太鼓

5 学び

生涯にわたって学ぶまち

★ 教育機関と連携するまち

地区内には国立の宮崎大学、宮崎市立の小・中学校があります。特に宮崎大学ではオンラインを含む各種の公開講座が開催され、敷地内の図書館にはカフェも併設されるなど多種多様な学びが提供されています。他にも小・中学校4校のPTAが連携して行う合同の研修会、各種団体の防災講座、地域ごとの文化祭など、様々な場面で地域と学校が連携した活動が行われています。誰もがいつからでも学べる環境を整え、学び合い交流する活動を応援していきます。

★ スポーツに親しむまち

宮崎県総合運動公園や海、山、川を有することから、各種スポーツの環境はどの地域よりも群を抜いて整っています。スポーツに親しみ、健康、体力づくりをしていく元気な木花を目指します。

★ 公民館活動が活発なまち

木花公民館では公民館講座や毎年秋の文化祭などの地域住民の文化的な取り組みが熱心に行われています。また同館内の図書室では宮崎市立図書館の配本サービスを利用して各館の蔵書を取り寄せる人も多くいます。各地区にある自治公民館の活性化と共に、楽しみながら生涯にわたって学習する機会を推進していきます。



木花地区文化祭



宮崎県総合運動公園



木崎浜



青島パークゴルフ場



ノルディックウォーキング

6 ひと

人が育ちつながるまち

★ 人が地域の財産として生きるまち

「ちょっぴりお手伝い」「特技を生かしたい」「面白そう」「興味がある活動に取り組んでみたい」など地域活動のスタイルは様々でOKです。全ての住民が持てる力を出し合える「人財」として地域を支える木花を目指します。

★ 個性を活かし輝くまち

一人一人の個性や感性を大事に育て、それぞれが自分らしく輝けるまちづくりを推進していきます。

★ 次の世代へ繋ぐまち

地域に根差した昔からの活動も新しく取り組む活動も、皆で知恵を出し合って協力し、次の世代がより楽しく幸せに暮らせるまちづくりを推進していきます。

★ 地域の催しを応援するまち

木花地区には各地区に根差した行事が色々あります。子どもから高齢者まで誰もが楽しめ、交流を通して郷土や人を愛する心も育まれる地域の催しを応援し支えています。

★ 情報を共有するまち

木花地区にある各種団体の活動をそれぞれの立場で応援しながら、情報の共有や協力で団体の垣根を超えた「チーム木花」の取り組みを推進し、広報誌等で紹介していきます。



地域との交流学習



木花地区成人式



木の花夏の夜祭り



広報誌「このはな」

7 振興

地域資源を活かすまち

★ 駅を活用するまち

ロータリーとして整備された、駅前広場一帯。木花駅周辺の保全活動と合わせ、地域住民が暮らしに潤いを感じられる空間や、木花の産業・文化の発信地として活用していきます。

★ 地域産業の活性化に取り組むまち

古くから盛んに行われている農業ではITを活用する営農者が増え、就労状況や環境など時代に合わせた形へと変化を見せています。今後も農商工が連携した6次産業化を含めた様々な産業に取り組もうとする人や活動を応援していきます。

★ 産学官民が連携した学園都市として発展するまち

1993年に日本で2番目の学園都市として整備された木花地区。ここには、移転統合された宮崎大学のほかに小中学校など多くの教育機関と公共施設があります。それは、地域の発展を願って先人たちが土地や資源の多くを提供してくれたからこそその財産。造成工事の際には多くの遺跡が発掘されたことから、古代から人が好んで住む土地柄であることがうかがえます。

産学官民による地域連携で先端研究が進む宮崎大学。約半世紀にわたって地震観測を続けている京都大学防災研究所宮崎観測所、宮崎自然休養林に抱かれた好隣梅や椿山森林公園、高齢者福祉に寄与する天然温泉の宮崎自然休養村センターなどに育まれながら、地域に生きる人々が「いきいきと暮らすまち」であり続けます。



木花の農産物



木花駅前ロータリー



宮崎自然休養村センター



トマトの加工体験

4. 木花の宝



木花の宝とは・・・

木花地域における人の手では作ることのできない自然の恵みや、先人たちが育み大切に守ってきた文化など、木花の宝としてこれからも大切にし、後世に伝えていきたいものとして、平成24年に行ったアンケートにより、木花地域の皆様に選んでいただいたものです。

別冊の「おでかけマップ」と合わせてご覧ください。

① 宮崎市自然休養村センターと好隣梅

宮崎市自然休養村センターでは、温泉入浴(大浴場、サウナ)、食事、休憩、宿泊、会議もできます。近くの紅梅、小梅、白加賀、豊後の4種650本の梅園「好隣梅(こうりんばい)」には、森林浴が楽しめるハイキングコースもあり、458段の大階段の先にある山頂の展望台からは宮崎市街地などが一望できます。

② 青島パークゴルフ場

平成23年(2011年)12月にこどものくにの隣接地にオープンした4コース、36ホールからなる日本パークゴルフ協会公認コースのパークゴルフ場です。

フェニックス、ワシントンアパームなどが植栽された南国ムード満点のコースは、1年を通して緑鮮やかで、フラットでやさしいホールから、変化や起伏に富んだホールなどがあり、三世代で1日中楽しめます。

③ 加江田川

加江田川水系は、日向灘に注ぐ幹川流路延長17.5km、流域面積53.8km²の二級河川です。加江田川の北部を流れる清武川は昭和20年代後半まで直接海には流れ込まずに、加江田川河口に合流していました。

加江田川河口域には水域や干潟、ヨシ原、草地、樹林地等のエコトーンが広がっており、グンバイヒルガオやカワチシャ等豊富な植物相の生育基盤となっています。

また、コアママモ群落等の生育する浅場はアカメ等魚類の良好な生息場となっています。

出所：加江田川水系河川整備計画(原案 宮崎県)

④ 阿弥陀如来様

鎌倉時代以前と伝えられる曾山寺のご本尊で、現在も曾山寺上・下の人たちが手厚く祀っています。

⑤ 加江田国有林内にあるイロハもみじ

加江田の知福川上流、林道沿いにあるイロハもみじは、加江田が南限ではないかと言われています。

⑥ 鬨八神社(くんぱち)

見猿、言わ猿、聞か猿のご神体が祭られ、豊年満作の神として親しまれています。

⑦ 鬨鉢山

宮崎市街の南方、鵜戸山地の北端に位置する標高 500mの山で、山頂には鬨八神社があります。

また、北方向からは宮崎市方面や尾鈴山を望むことができ、小中学校の校歌にも登場する木花のシンボリックな山です。

⑧ 円南寺と伊東マンショの像

飢肥の曹洞宗長持寺の末寺で、創建は不明ですが、かつては日向七堂伽藍の一つに数えられ、安産の観音様として知られていました。

堂内には、天正 10 年(1582 年)に少年使節としてヨーロッパに渡った伊東マンショと伊東家累代の位牌が安置されています。

また、円南寺の山門と境内には仏師串間円立院の作とみられる仁王像と地藏菩薩坐像があります。

⑨ 外所(とんところ)大地震の供養碑

寛文 2 年 9 月 19 日(1662 年 10 月 31 日)に起きた日向国最大の地震(マグニチュード 7.6)は、有史以来例のない大地震として伝えられています。寛文の大地震は、海中に沈んだ外所村に因んで「外所地震」とも呼ばれています。

国道 220 号線沿いの島山地区では、およそ 50 年毎に供養碑が建てられ、当時被災した人々の供養が行われています。

⑩ 木崎浜

令和元年(2019年)9月に「ISA ワールドサーフィンゲームス」が開催されるなど宮崎を代表するビーチです。

ビーチブレイクは比較的距離が長く、2～3キロにわたる長い海岸線で1年を通して楽しむことができることから、県外から多くのサーファーが訪れ、中には木花に移り住む人も多くいます。(ビーチブレイク:海底が砂地で構成されている海岸のこと)

また、木崎浜は海亀やコアジサシの産卵も見られる海岸です。

⑪ 青年松

運動公園の東側は、現在のような松林はなく砂浜でした。明治27年(1894年)ごろから消防団の人達が、津波や塩害等の災害から地域を守るために山々から松や竹等を掘り起こし、何年もかかって植林を続けて現在のような松林となりました。

松林の保護活動は150年余り経った現在も地元の人たちの手で続けられています。

⑫ 宮崎県総合運動公園

宮崎県総合運動公園は、総面積154ヘクタールの敷地の中に近代的な競技施設と、500種42万本の植栽樹木で構成された「緑の中のスポーツ公園」として広く県民に親しまれています。

また、プロスポーツ球団などのキャンプや全国規模の各種大会に活用されています。

⑬ 正蓮寺平野と干拓

外所地震によって木花ヶ丘麓の正蓮寺平野も陥没し広々とした入江となりましたが、洪水の度に土砂に埋まり次第に泥沼となっていました。

その後、2度にわたる大工事によって、正蓮寺平野は外所地震で失われた水田地帯を取り戻しました。

⑭ 秋葉神社(熊野字木崎)

木崎地区は明治12年12月25日(1879年)に約300戸が消失し、免れたのは2戸という大火に見舞われました。

住民は火事を二度と起こさないよう火の神を祭る秋葉神社(静岡県)の分霊を受け、同地区の公民館敷地内に神社を創建しました。

毎年旧暦の10月17日に地区をあげて「秋葉祭」を行い、防火意識の継承を続けています。

⑮ 今江城(仮称)跡

昭和 58 年(1983 年)に学園木花台汚水処理場東側丘陵地(現在の学園木花台北 1 丁目)の杉林を伐採したところ、保存状態良好な独立丘陵地の山城が発見されました。

今江城(仮称)跡は、現時点では文献上記録には現れない城ですが、3箇所の曲輪及び周囲に空堀を有する城であったと想定されています。

⑯ 木花ヶ丘阿弥陀堂の阿弥陀如来立像

かつて木花神社境内の西隣に木花山法満寺がありましたが、その名残を偲ぶ石塔群とともに木造阿弥陀如来立像一軀を安置する仏堂だけが残されています。

本像は像高 99cm、螺髪(らはつ)に衲衣(のうえ)を纏い、蓮華座に立って来迎印を結んでおり、衣褶(いしゅう)がやや形式的に流れる特徴から鎌倉時代中期以降の造立と考えられる県下に数少ない鎌倉彫刻の一例として貴重なものです。

(宮崎市指定の有形文化財)

⑰ 木花神社

木花ヶ丘の南端、標高 29m のところにニギノミコトとコノハナサクヤヒメの夫婦神を祀る木花神社があります。創建は不詳ですが、永禄 5 年(1562 年)に伊東義祐が記した『飢肥紀行』の中に木花神社のことが記されていることから、その頃にはすでに祀られていたと考えられます。

別名「木花の権現さま」とも呼ばれ、神社内に残る宝暦 5 年(1755 年)の棟札には、「開耶姫(さくやひめ)大権現」と記されています。

⑱ 木花公園

木花公園は、標高 37m 程の高台にある見晴らしが良く広い芝生公園で、東は日向灘や青島を望み、西は学園都市である木花台を見下ろしたり、遠く霧島連山を見たりすることができます。春には桜の花見スポットとしても人気です。

⑲ 車坂城跡

別称、加江田城、海江田城。天授年間(1375~81 年)県(あがた)土持氏の支族・熊野氏によって築造されました。応永年間(1394~1428 年)のはじめごろ伊東祐立が攻め取って以来、島津氏との間で何度か争奪戦が繰り広げられましたが、伊東氏によって永禄年間(1558~70 年)頃、廃城となっています。

⑳ 加江田神社

祭神はアマテラスオオミカミ・イザナギノミコト・イザナミノミコトで、古くは伊勢神明宮・天照皇大神宮と称しました。

元の社殿は加江田の元伊勢にありましたが、寛文2年(1662年)の大地震(外所地震)によって海中に没したため、翌年現在の地に遷座されました。

江戸時代には飢肥藩主の崇敬厚く、神殿・祭具等には伊東家の紋が彫られ、毎年2、6、9月の例祭には藩主自ら参拝していました。

㉑ 熊野神社と木花相撲踊り

社伝によれば、紀伊国の熊野神社のご神霊を勧請したのが創建で、この熊野神社に由来して熊野の地名が起こったと伝えられています。

熊野神社の祭礼で舞われる木花相撲踊りは、江戸末期頃、宮崎に地方巡業に訪れた大相撲一行から離れた3人の力士が木花地区の農家に住み着くようになり、この3人が踊って見せたものを女子に教え込んだのが始まりだと伝えられています。

現在は木花小学校の児童たちによる同好会が設立され、大人から子どもまで幅広い世代で伝承活動に取り組んでいます。熊野神社まつり(7月)

㉒ 木花古墳(前方後円墳・2基)

清武川と県道338号線(大久保木崎線)に挟まれた畑中に、前方後円墳2基(1号墳と2号墳)と円墳1基(4号墳)が現存します。

1号墳は墳長58m、葺石はありますが埴輪は確認されていません。2号墳は、墳丘の改変が著しく、詳細は不明ですが、現状では墳長43mを測り、葺石と円筒埴輪が認められます。

㉓ 潜水橋

清武川にかかる宮ヶ田瀬の北にあり、増水時には橋の上を水が流れて潜水する橋で、自然に溶け込み地域の生活道路として親しまれています。

㉔ 宮崎大学

平成28年(2016年)4月に新設した地域資源創成学部をはじめ、教育学部、医学部、工学部、農学部の5学部、大学院6研究科からなる総合大学です。

「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、地域との連携を密にした人材育成を行うとともに、宮崎最大の知的拠点として発展しています。

また、生命科学、環境科学、エネルギー科学、食の科学、多領域共生分野の科学的な

どを中心に、分野を超えた、融合的で特色ある高度な学術研究成果を世界へ発信しています。

②⑤加江田溪谷

加江田溪谷には、水の浸食によりできた千差万別の奇岩が点在しており、その美しさから、「日向ライン」とも呼ばれて親しまれてきました。

遊歩道を進むと、まずはひょうたん淵があります。その先には林業が盛んだった往時を偲ばせるトロッコ軌道跡が続き、さらに先に進めば硫黄谷、甘茶の泉、しばせき(伐採した木材を下流に運び出すために作られた堰跡)、静の谷、多目的広場(以前の加江田キャンプ場。現在も休憩場となっています。)へと続きます。

②⑥双石山(ぼろいしやま)

木花西北部にある双石山は標高 509m。中腹から頂上まで砂岩や礫岩でできている急峻な山で、長年の浸食によって様々な奇岩や絶壁が見られ、昭和 44 年(1969 年)に山全体が国の天然記念物に指定されています。

全域が常緑広葉樹林として覆われており、構成種は 113 科 570 種が記録されています。

特にシダ類が豊富で南方系シダ類の宝庫と呼ばれる一方、南限植物も自生しています。

また、林内には 1 属 1 種の哺乳動物として貴重なヤマネや亜熱帯系のミカドアゲハなどが生息しているなど、自然が多く残されている大変貴重な場所になっています。

②⑦椿山森林公園

宮崎市と日南市北郷町の境にある森林公園で一帯は餌肥杉の美林が見られる地域で、もともと照葉樹林帯でヤブツバキも多く自生していたことから椿山と呼ばれていました。

市制 60 周年を記念して、椿を甦らせようと世界一の椿園を目指して整備され、ヤブツバキを中心に約 1,000 種、約 48,000 本が植えられています。

平成 15 年(2003 年)には国際ツバキ会議から国内初の「国際優秀ツバキ園」に認定されました。花の見頃/2 月上旬~3 月上旬。



きばなのきずな
kibananokizuna



木花地域自治区地域協議会

〒889-2151 宮崎県宮崎市大字熊野591木花地域センター内

TEL.0985-58-1111 FAX.0985-55-3013

E-mail.07kibana@city.miyazaki.miyazaki.jp